

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-80	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	倫理 311	倫理		

1. 編修の基本方針

- ・青年期の意義と課題や先哲の基本的な考え方への理解を通して、人間としての在り方生き方について思索を深めるにあたり、学習が抽象的で難解になりがちなことを考慮し、具体的で分かりやすい叙述に努めた。
- ・現代の倫理的な課題について認識し、人間尊重と社会的連帯の精神を生かしてよりよい社会の実現に貢献しようとする実践的な態度をはぐくむため、自分自身の問題として主体的に学ぶ意欲を喚起できるよう、各章・節の導入の構成や課題の提示、また、先哲の紹介、写真、図解やグラフなどの掲載に工夫を凝らした。
- ・真理を求める態度を養い、幅広く正確な知識に基づいた思索を可能にするため、曖昧な表現や不正確な記述をなくすように努め、また、専門的な用語には的確な定義や脚注を付して生徒の理解を促すよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 青年期の課題と自己形成 1節 青年期の意義 2節 青年期の課題と生き方	学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。	5～20 ページ
	自我、アイデンティティや自己理解についての丁寧な記述に努め、また、就労や職業に関する記述を取り入れることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。	7, 9, 11, 12～14, 15～17 ページ
	青年期における個人と社会の関係についての問題を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。	7, 9, 12～13, 15 ページ
	東日本大震災やナチス・ドイツの強制収容所に関する記述などを取り上げることで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。	6, 19 ページ
	日本社会にまつわる例示や思想家を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが	6, 7, 9, 18, 20 ページ

		きるように配慮した(第5号)。	
第2章 人間としての自覚 1節 人間とは何か 2節 ギリシャの思想 3節 キリスト教 4節 イスラーム 5節 仏教 6節 中国の思想 7節 芸術と人間		学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。	21～72ページ
		人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。	21～72 ページ
		正義や社会、国家についての先哲の思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。	34, 37, 62～67 ページ
		先哲の思想を取り上げる際、その自然観にも着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。	26～28, 35, 58, 67, 68～69 ページ
		日本の伝統と文化に大きな影響を与えた諸思想を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	53～69 ページ
第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚		学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。	73～126 ページ
		人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。	73～126 ページ
		自由民権思想、社会主義や女性解放などの社会思想、戦後思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。	107, 115～116, 122～125 ページ
		先哲の思想を取り上げる際、その自然観にも着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。	74～91 ページ
		日本における独自のものの考え方や感じ方について詳細に記述し、それが外来	73～126 ページ

		思想とのかかわりの中ではぐくまれてきた点について丁寧に扱うことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	
第4章 現代を生きる人間の倫理			
1節 人間の尊厳の根拠を求めて		学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。	127～188 ページ
2節 民主社会と自由を求めて		人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から丁寧に取り上げることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。	127～188ページ
3節 社会変革の倫理を求めて		正義をめぐる思想、ボランティアやフェミニズムを取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。	176, 184, 186～187, 188 ページ
4節 新たな人間像を求めて		先哲の思想を取り上げる際、その自然観にも着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。	129, 138, 177～182 ページ
5節 自然や科学技術と人間とのかかわり		日本をふくむ東洋の自然観を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	181～182ページ
6節 民主社会の成熟のために			
第5章 現代の課題を考える			
1節 生命		学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。	189～218 ページ
2節 家族		現代社会における諸課題を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。	189～218 ページ
3節 地域社会		社会における性別役割分担の変遷、コミュニティ概念、他者認識と異文化交流などを取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。	196, 198～200, 206～209, 215～218 ページ
4節 情報社会			
5節 文化と宗教			
6節 環境			
7節 国際平和と人類の福祉			

	生命倫理や環境倫理など、生命と自然をめぐる現代的な諸問題を取り上げることで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。	190～194, 210～214 ページ
	異文化交流と日本におけるその課題を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。	206～209 ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・重要な用語はゴシック体で示し、視覚的にとらえやすいようにして学習の効率化を図った。
- ・他ページと関連事項のある箇所については、本文中に参照ページを付し、学習の相互関連を図った。
- ・第2章～第4章の本文では、各項の学習の手がかりとなる箇所に波線を付け、思想学習の際の手引となるように配慮した。
- ・先哲や思想家の原典資料を本文中に適宜提示して、考える素材を提供するとともに、学習をより深く豊かなものにできるように配慮した。
- ・主要な思想家の写真・略歴を示す場合や、本文内容の具体例を提示する場合は、囲み形式で掲載して視覚的にも区別しやすいように配慮した。
- ・本文中の「コラム」や、1ページ体裁の「思索の窓」を適切な箇所に設け、本文での学習を発展させたり、現代の倫理的な課題について考えさせたりするように配慮した。
- ・第1章～第4章の各章末には「研究問題」、第5章各節末には「課題」を設置し、生徒が課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(アクティブ・ラーニング)に取り組むことによって学習内容を深めることができるように配慮した。
- ・前後見返しに思想史年表を提示し、思想内容を時代背景の中で具体的に学習することができるように配慮した。また、これによって、世界史・日本史と関連して学習することもできるように配慮した。
- ・口絵では、第2章の構成に対応した配列で写真資料を提示し、倫理の導入学習や、第2章学習中の相互参照が可能になるように配慮した。
- ・カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性にかかわらず学習できるように配慮した。
- ・再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-80	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	倫理 311	倫理		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・「生きる力」及び人間としての在り方生き方に深く関わる科目として、先哲の考え方については、その倫理的な内容を重点的に取り上げ、理解と思索を深めることができるようにした。
- ・第1章～第4章の冒頭には各章の導入にあたる箇所を設置し、学習内容と現代に生きる生徒たちとの連関について意識することができる内容にした。また、第5章では、それまでの学習内容をふまえた上で、現代社会での様々な課題を認識し、その解決のための思索を深めることができるように配慮した。
- ・第1章～第4章各章末の「研究問題」や第5章各節末の「課題」では、論述したり討論したりするなどの言語活動を通して、主体的に探究する学習を行うことができるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 青年期の課題と自己形成 1節 青年期の意義 2節 青年期の課題と生き方	(1)	5～20ページ	6
第2章 人間としての自覚 1節 人間とは何か 2節 ギリシャの思想 3節 キリスト教 4節 イスラーム 5節 仏教 6節 中国の思想 7節 芸術と人間	(2) ア	21～72ページ	18
第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚	(2) イ	73～126ページ	18
第4章 現代を生きる人間の倫理 1節 人間の尊厳の根拠を求めて 2節 民主社会と自由を求めて 3節 社会変革の倫理を求めて 4節 新たな人間像を求めて 5節 自然や科学技術と人間とのかかわり 6節 民主社会の成熟のために	(3) ア	127～188ページ	21
第5章 現代の課題を考える 1節 生命 2節 家族 3節 地域社会 4節 情報社会	(3) イ	189～218ページ	7

5節 文化と宗教			
6節 環境			
7節 国際平和と人類の福祉			
		計	70